

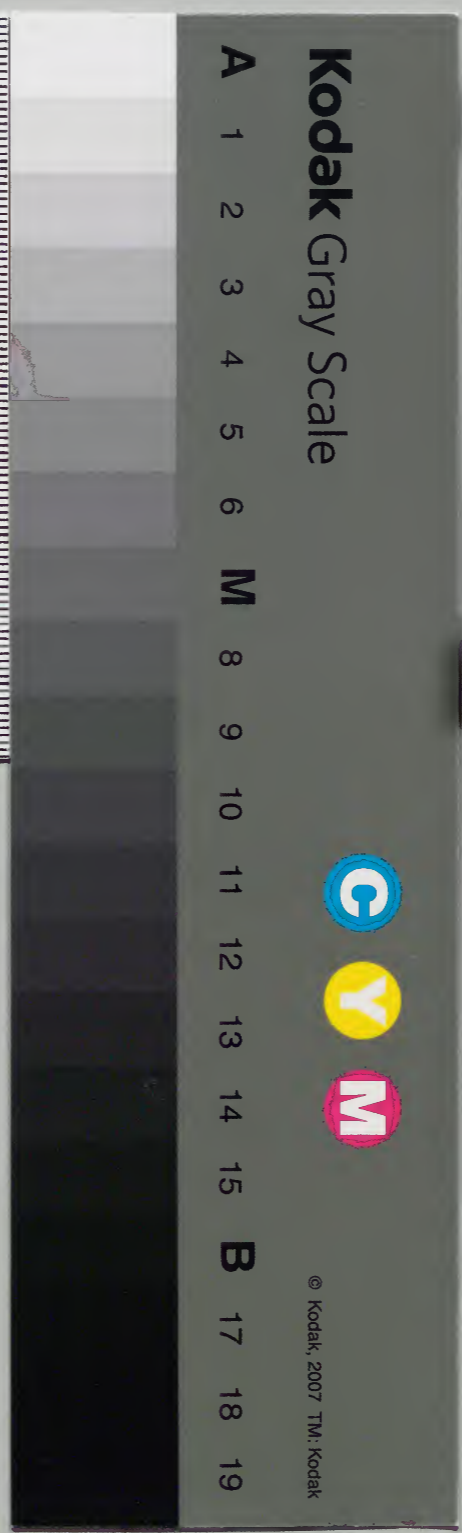
和歌抄

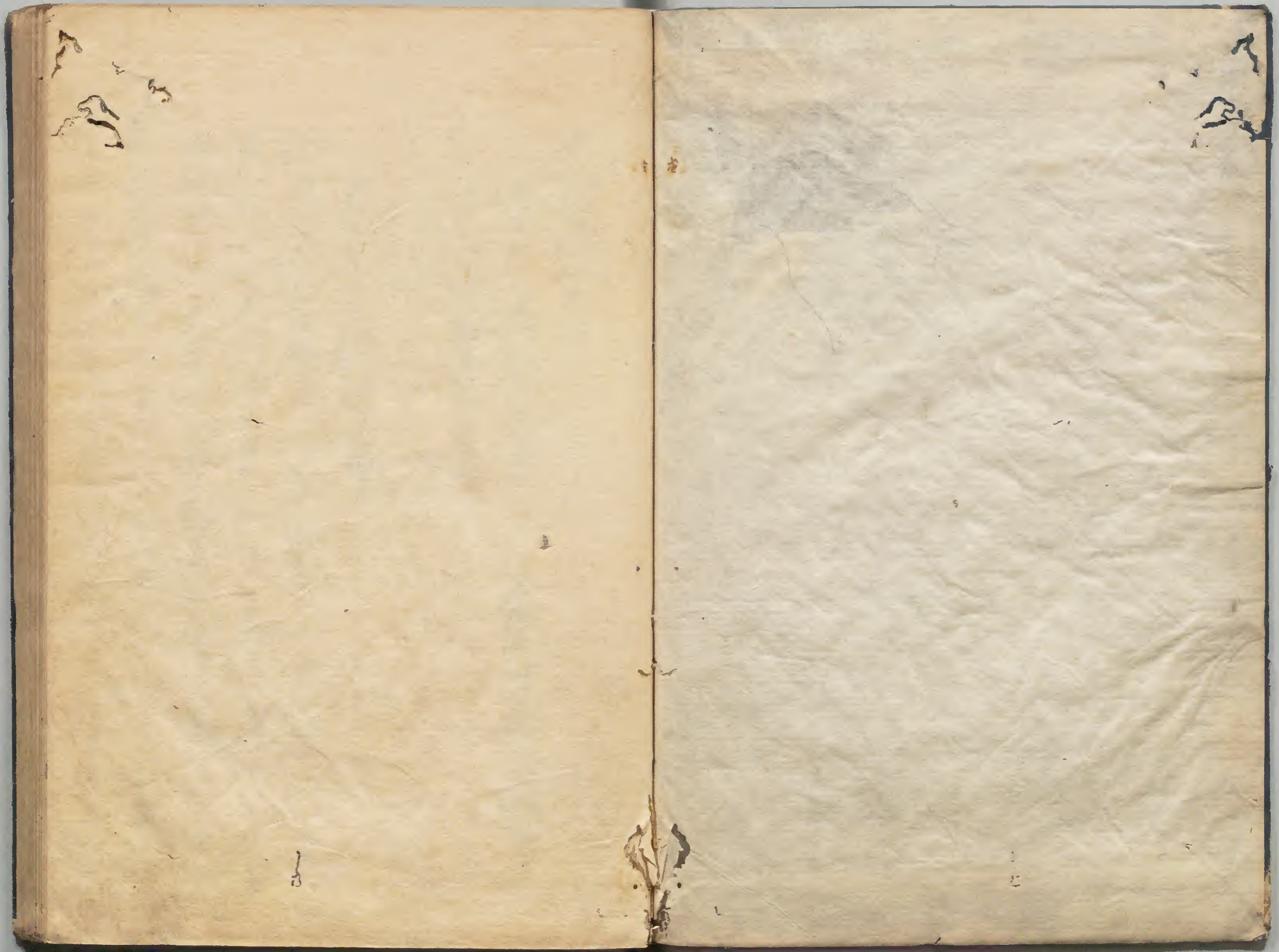
中之一

和書門			
類	號	函	架
類	六	三	一
號	七	三	九
函	一	三	九
架	八	三	九
冊	七	三	九
冊	一	三	九

內閣文庫			
類	號	冊	函
類	六	一	三
號	七	一	三
冊	九	一	三
函	六	一	三
架	七	一	三
架	九	一	三

內閣文庫		
番號	和 18716	
冊數	9 ( 4 )	
函號	203	99







十訓抄中

第五可撰朋友事  
第七可專思事



第五可撰朋友事

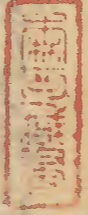
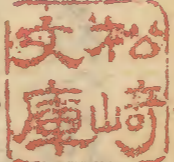
或人云人夫善友よあらん事と云ふは

麻の所のの遠はるより自らと云ふは

遠はるより自らと云ふは



浅草文庫



第六可存忠直事

すうのくせのある世心のかし人なまらさう

ありくうらあか人の中よまゝりぬれはしとれ  
あましくうら月くは自くあしくちか心かり後  
徳友よありん事経よ説き文よすめきり顔

氏の家訓よハ

與善人居如入芝蘭之室久而自芳也  
与惡人居如入鮑魚之肆久而自臭也

と云ふ又或文よハ人の心ハ水の入物ハ随ッあ〜入  
月をあれハ昂を〜因ッれハ昂高くなり心ハ朋友ハ  
あ〜何と不可撰と書り又九条殿遺詠よハ高  
色悪む人よ付ハ事あれと教へ給なりぬれん

カ形くうらあ〜心友あり共〜其人と撰合〜  
業猶照と異よすなり〜也花乃〜よま〜とら  
三日月のあよ一夜始〜とらあ〜も信あ〜とら  
こすま〜〜思むあ〜とらあ〜とら友あ〜とら  
よハ臨心かり〜徳〜とらあ〜〜人よあ〜  
休芝潤子行〜一人の氣竹林子菴〜七賢類〜と  
かり〜と友ありけの子猷ハ雪乃巻月よあ〜とら  
て遙子剡縣の安道と尋孫劉慎ハ清凡朗月よ云  
彦乃かり事恨とけり滅よ子あ〜とらあ〜とら  
よハつら曲あ〜とら〜とら〜とら〜とら梁の考

玉鄰枚とすし一の片さるし一六兎園の遊をも  
そのめ孫魯の仲尼の子路と云一りりしき弟子は  
をくれくはしよすあけりおとすて孫よけり  
法和才九の百子貞真親この作孫のけり

鄰枚散後平臺靜より 空遣春風只斷腸ラ  
文選弟二十一魏文帝子吳質書云

昔伯牙絶弦於鐘期仲尼覆醢於子路知音之  
難遇傷門人之無逮也

一河原大長亡靈延長八年之頃寛平法皇の宮人は  
託して我在世の時殺せを事するはようとそ若然を

受るゆりまあれハ法皇初言まく其をあよし七ヶもよ

一七訛誦レ被彼あり清願文紀在昌り作けり

朕昔為握符之尊卿亦為和義之佐合體之

儀重於曩時滅罪之謀須迪於今日

一村上帝のれをせ孫を孫把之納言延光歸朝夕之戀忠

子之口かる人の色を一せめき孫りりき或衆の友は  
弟製孫りをまけり

月輪日本雖相別温意清涼昔至誠

兜率寂高歸内院如今於彼語卿名

天納言夢覺て驚て是を和しらる



てろもめらう頼光翁のつれまゝり智光其せ而た刀人んや  
形も夢中も極系も系て頼光のせも多くとせりるん  
と刀人ゆりして其極を結も書つるよとハ智光の鼻  
羅として世も傳へたり

⑥ 中山大居士のつれまゝり人宰相成頼と保て常にお供  
友なりけり宰相係も道心終してお家しても野  
菴居りしとせりけり変りけりお記をまゝと云者の初  
心ゆりかゝと使してお家の表さかゝと云らばまゝとて  
栴の指書とくうくせりまゝりして中山ののまゝり  
の山さゝんよら書りけり高室と作まゝと大居士お

あしてろこは信持けり宰相入道の許人なりけり使給  
て人ご事なると云やとせりけりあやと思くと  
こせりけりあせり事へかゝて是末とて刃するれとく  
そまゝり其のつり障子のとまゝとてまゝり不ぬりあ  
りゆり其ゆを入道まゝりけりあやと云らばまゝり  
けり山のまゝりすまゝりいけりまゝりいれりまゝり  
宰相も人んとしてとあはのまゝりすまゝりまゝり  
まゝりまゝりお家のつれまゝり

⑦ 初牙鐘子朝とまゝり琴の友也鐘子光とまゝりまゝり  
とハ誰より琴のぬゆとまゝりして其極とまゝりして

あつさりきりさきよりか文選の文は意也

元稹と楽天との詩の友としてありせしり元稹もその如くなりしり楽天其作をその詩を二十卷集て唐の大教院の経院を巻とせしり遺文三十軸軸々金玉竜門原上土埋骨不埋名と云れをわきまする也

楽天又或文の友よりせしり詩は云

不情鄭重金相似 詩韻清錫玉不如

誠は任友の交何よりも面白くしり院家乃南水の垣とも不随貪とも私らりしり何事と契けん孟母の子を

思の人は隣と云なきて之けるも友をえしり心是まことと云とつと也友よ付て漸金戒本のうちよりと也ねと云事あれ九人留はつけり上よりと云えれはあらず山名鏡は向てわき鷹の行をせしりてその留友を思心也仇保の河系の新務の中は友よりとせりふるの友言わし思すともくとも中にもよる入の波のよよつぐたぬをしりしりも移も下りしりしり思のわしりしりも移也友なりしりよの月あつさりしり思の海の海くまらんとすり人すしりわらりしりしり八橋志しりしりしり思わしりて心月しりしり移世のわしりしり傷危同元のりしりしり



只うしある友よいあすいへるもあれは書をいしむるよしと  
船におもをもえりぬいし次こまよいあすいへるよしと  
かすし心をえりぬいしわり唐の梁伯鸞の妻孟光を  
形極めていへりしけりし母史は人陰道二心わ  
りりり史せと道まで霸陵山は入ける時よつし  
家の食をいあつしす婦の礼までいれんしわりり  
しりて志原りりり誠よ其は安西施南威とつせり  
史をいりしめ外心ありんわりてあつし何の意  
かありん秦仲吟と云ふ

富家女易嫁 嫁早軽其は

おとあれいしし便をいしし史のそりりかみりし  
むありしわりしすし書を定る半法令のをい  
あり

貧家女難嫁 嫁晚孝は姑

● 淳和帝の法代子夏野大臣の妻と律令をいし  
りし附男女は振舞と分ちりしりし内は書をいし  
三門可去道七あり其三と云はりし男の父母はりし  
絶る附史誌たりし悲し悲しりし女は貪賤の時は随ふ  
世富学ては不可也三よい史父母はりし時得女と云ふ父母  
死ては不可也三よい返りしは也其七と云はりし

男の父母のふは横けり妻二は間丈しきる妻三は心  
こつと妻四は物縁しきする妻五は盗する妻六はえ  
るけり妻七未強ん事と可態扱也七は悪く病あり  
妻八世七の矢あらん女は近づくらうす但妻子はけり  
そら登りあす又悪くを片を不携片又悪く可  
携と云事あれは女くしく男と云ぬはあつれを  
故よ白居易の井の底の瓶のこくくくく人の氣  
あつしきて成をりてうくくくゆりすくかれと  
云とんれ長谷雄御紀相籠の貧女吟と作く男と携んんん  
心より人をもんるこもあれと教へ給り中にもあ

まゝいんもあすひいしくはくむを

⑨大和物語は昔大納言ありける人のこころまよふんとて  
かいつきける女を肉舎人かろのこころをこころけりし  
いはりあこの部あつたはい何れをむすもて信け  
る男あへりそりけるまよふもく山乃井まよふら  
まよつてあつたはまよふもくす成さける教をえ  
ちて

淡島をへるもろ岩井のあつた人をおりあふ  
とあふもつてあつたはまよふもくかりあはけりし  
せり





つげる月とよ相如終よ世はくく文因令と成てい  
うりもれい父娘の世をゆるしてなり是又すきの道あれ  
こ一節は難定惟喬親王聽彈琴詩云  
相如昔拙文君侍 莫使公庭中子細聽  
或云妻の蘇也云心の上入り下庶人よむるまて支  
の心よひと一さう故也昔心若宵く時ハ家亡と云つた  
志妻史の中ハ悪事と云ふまよりの古事平と云ふす  
め此世よの家を治る極と不亂後世ハ道をするむら  
善知識ちるく

③唐の陶谷子と云者るまかり一二年の内に家たふす

内人より其妻をうらむをうきて泣悲あり姑夫ふ  
熱く此と田よ妻言て云家因能云て官あるを嬰  
味とす切字とて富りを積聚と云林三の令事叔数家貧  
して國富りし一福子孫は継名と後代はあつりま  
令言子无能云切して富業する事一後器を思ひ是  
ころ富り我中南山よ玄豹あり七月雨露はわづれく  
をの衣毛えりれん事を惜てあてく食物と求る心忘  
きり此ありや形あり害をのろた馬よむりしてハ侮  
り食物よの思あり善と約也此帛言子ハ似たり  
是れよけくそと善けり言子遊よ善よあひまかり

お前の妻も付くし人男の事ありくや

文徳中二子

法和帝のつれをせ給く東宮侍りし不とん悲ひ給と

と限か一月日さかりりし付く首を忠給おと

乃と少神よりくまあてらんわさすうた胡

夕の通し文大を入をくれさる箱の百合もあかり

そらとわけく人せ給も付くも侍心の垂不わく

是くさるあれハ平井の烟とわん半もしけよあ

りとして此を過帝まするさく多の大小兼經と書

供養口しきさり其山頼文橋贈納言廣相は納書

あれは作もて多く侍給をわんもち料紙の色忠

ゆよへの元のうすやわの松もあさるあるを刀くこの

巾經ハ結帝もあす色紙もあすいりわら松乃

侍らうさるせハはるあるとくわりその給せぬを

強まけらありすのさく地くおよせくまつくまの

いあれ侍もさすて實員よ志うわりと給作あれん

此意とやハ松文よのせくさくきと恐れわくしあれん

吾事あり震筆と給もたせらも憚也と給作あれ

えサハつそつはのめうさくむとて

同心契寢蓮花偈 匪石詞入鑲字門

書へくれさるくせん是よりそる古通紙ハ世子ハん







みおりのみか房兵衛佐ゆくとて唐の殷紂周の湯王の  
右履姫姐ホウシシタシキ已としてよりおろくくけおとしてとあること  
しはしつと志はつすあはは寵をてわれうとす  
はあちまひはる共國亡ひよあり可然亦世の契と  
まおろく帝の心各をらうおろ倒よられはつり批難  
の朝すらの家の索ツラる世と云は是也

妙莊嚴王の邪見ありし津徳上人の勸よりて  
愚痴をひらけし善趣より法に転廻如來を  
耶輸陀羅ヤシュダラ菩薩名也  
瞿夷女クワイメと契と結く世々并心と退せり昔は佛易を  
證しはつと諸法の善惡随縁事也

第六可存忠直事

或人云孔子の法万事有偏は君子随より忠よあす  
偏は親は隠考よあすあうふべき時評ひ随へも耐  
随是と忠孝とと説んる君子とてあれ父母親類亦  
下とあれ知音朋友とてあれ悪くん事とひあは  
すいさしへこと思ふ世の来は此事を行人の習  
ひて思ふる事をつらひ心つきちていひつす  
人の心よけりて覚えは天道の義を習すし  
とて人の愚事をいさむりの願を差ある事あり  
しはつす事のあきねして成く因は思ひ



犯すすゝとるゑ黄雀又蟠婦とのとちとく掄の末  
おはらりを引く童子犯とすゝとるゑ童子又黄  
雀をのゝ守く前よ深若後よ落楳のあり事を  
不知して成とあまそり此皆前よ利をりか  
ひのく後の害とる願故也とせり王此時けを  
と用く晋と責とる事留給ぬ但周文は殷討を  
おむるまゝは義をあもく故國へ向給時執行の  
二子三子理とちて諫とちすといふ呂望のこゝろ  
ひよ付くまゝり給つゝりき是は討の心おられり  
しりく國是をさむく回天授人子の時おれん後

害の限はあゝり也

古 晋文公の文獻公のつれあふおれり他國へ移り給け  
る小建中より七疲外て行歩よ及てよりより女子  
推世とるすもく股の肉と切て供するふりて力  
付く途道て後小逸よ獻公のけをばはり

大 漢馮昭儀ハ元帝の時耐の官女也園よこゝろく飼給  
けり然とて帝の時産らうくすゝとるゑりけ  
るよ昭儀是をふせつゝ成とねきりおれん然と  
まりもりけりをた右より人來ておとるり帝昭  
儀よおを回給家守猛獸ハ人を得くすゝとる



これら振一をわづれたる臣乃勅よりなれりすべく忠臣  
と云者君のきりあを惜む命をわづれぬ也

漢武の麒麟園の功也塞垣よりまきく十九年  
遂に漢の節と失ふす鄭泉の爲孫園の使者也胡  
地へまきつて三千里更に阜干城絲せきりき焚於朝  
の荊軻は魏を借し紀信は沛公の成をそつりける  
成の恩のあまつりれ命の義よりして經といり是也

○孝仁天皇の時但馬守と云人常世の國へつりしりける  
り其終に帝失給くあり伊子景行天皇の位より昂給  
年ぬまれりける持く系より九種の香菓より下の物を

先皇の清廟よりよりして清泣して云命と天子受て  
遠に瀛水と傳ひ性来の間十年と命して今天皇崩  
して又命する事とゆくと獨せつとてし何の益  
かあらん天子作とさけのく自えりけり帝  
群をよ作くは墓を孝仁の陵の例はつせ給きよりける  
軍の中まで思のきあよ命をすつる類は世のつひよ多か  
まをわら例は稀也唐よ急の懿公よりける心はく  
ぬくわらしめて思より下ぬとハ賞し給て  
鶉よのきをしして行幸の折ハ同樂よのせく幸し給  
けるよ急しとのきく國を亡す付鶉君の怒を退く

とまきくもあせく人あがりまれのゑのまを懿公をころして三  
くひて其肝をくわと去の上子のくしてゆりまをれ懿  
公の良弘深と云人たよ私己う腹とくくく君の肝と入  
て死すま私を府に死すくを世人云けり廿人よして  
高位を踏平と増く鴨斬は素車まよと此心をけ  
ろよあわれの穢はけりくくくくくくくくくくくく  
き白皇子を位付給くはせ方恨もくくくくくくくく  
らて別思切く息子命まてとすくかん半其類まか  
き

◎延喜法代は貫之以下は人の奇仙は作く古今集と撰

れそれ又新撰集と撰ひまらへく中貫之一人編言を  
ちりくきりけりかひまこくくくくくくくくくくく  
年二月は去らけりくくくくくくくくくくくくくく  
まきく崩沛の乃件序云貫之秩羅歸日將以上獻橋山  
乃晚松愁雲之影已結湘濱秋竹悲風之色息出傳初  
之納言息以薨逝ス  
とくけりも彼但毛理心の中よはるくくくくくくくく  
せうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
◎良峯宗貞は深草天白の近臣也為人頭は成よけり  
時法門よをくれくくくくくくくくくくくくくくく



よ内裏としか花山よ幸らゆ中と中とあ人追々系よ  
あ帝己よ比立より推成ゆりゆとより又義懐か  
治く云外戚より重くおりつらよ外人とわたりて  
と文よ世よ交らん見らる一め久一早くお家するを  
一と義懐此中とねとて同お家する人の教訓とて  
あれいといふ時の人思ひけり始終あうとて  
飯室よ位てよまねける

カ一人よとすれののひらひらとてとてとてとて  
惟成はよ頼み業目よと川のたぐく一条大路とてとて  
けりてしてと此帝世と省を給よあよりいと長よは

小野宮女の女弘徽敷女侍とてゆつとを給けり限お  
くは志涼りりけりよとくれを給てゆ款あよりとての  
かろ心ほそくおり一ゆり比栗田用白も一殿上人とて花  
人并おとりけりよや扇よ

妻子称寶及王位 照命終時不随者

云文と書てりゆとよりけりゆとゆらん一あよりゆ心  
かりてけふと世よ海初のやと地國のこり王の位  
と一ゆいと思食おと息十善の王位を給て一葉并  
の道よゆを給けりすてよ内裏としか花山とて  
寛和二年六月廿二日おりけりる明月のふりけり



つてあらはしむるつらむをわはし地をわはしけりてはくま  
すく名経けりわいし村を凡よわつておれ我願  
既よ満ぬて真觀殿のころまをわわわりてはくま  
るまをりそは妻をりてはか付くまをりてはくま  
殿は法修行ありてはくまをりてはくまをりてはくま  
賢くもりてはくまをりてはくまをりてはくま  
わくもりてはくまをりてはくまをりてはくま  
三位中納言ありてはくまをりてはくまをりてはくま  
そはくまをりてはくまをりてはくまをりてはくま  
白き威経ありてはくまをりてはくまをりてはくま

白とそりしめり

◎中納言顯基卿は後一條院よりこのけりてはくまをりてはくま  
了官位よ付て恨ありあり帝よとくれもりてはくま  
忠臣の二君よはくまをりてはくまをりてはくま  
おろしてより帝よくれ経ありあり兼久  
もれいらりありてはくまをりてはくまをりてはくま  
ひくまをりてはくまをりてはくまをりてはくま  
人着くより道心より常よりてはくまをりてはくま



古墓何世人の 不知姓よ名  
化爲路傍土 年々春草生



つとむるよおかりて幸よあめれて善心くさるなり

美濃大納言と此人のすぢ也

◎一条院三子母上东门院内堂女後朱雀天皇御世に皇太子はあつて位と東

宮よりゆつりもつて後一条院を東宮より立しは

宇治原より二所の清和天皇と作置せ給けりよ帝の

御事と畏しとせ給く東宮の御事被作付は

延喜の御事とせ給く不受の色よりありあり此宮を

御事と畏しとせ給くあつて心をこまよと河へ

よりゆ也

藤原相公の御事とせ給く成給よけりて

出づる内院以相信子家云云

めりてとせ給くまはりある

御事とせ給くあつて御事とせ給く

とせ給くあつて御事とせ給くあつて

つとむるよおかりて

御事とせ給くあつて御事とせ給く

◎菅原家昌泰三年九月十日の宴は正三位の右大臣の大

将少く内よりせけるよ

君は春秋に漸老恩を涯岸報猶達

とつとせ給くあつて御事とせ給く

つとむるよおかりてを同元年正月は御院の御事と

奏事不實子依く俄よ志事控帥よりつるは  
一六つるの世もうらうらしく清静も清りけ  
りた猶君臣の礼ももんかしく奥水の契も思ひす  
やむるをせ給も人都のやうとては清衣とゆひ  
よろへは清きよりありはて治の年固日にくら  
はせ給けり

去年今夜侍清涼 秋思詩篇獨斷腸

恩賜御衣今在此 捧持毎日絲餘香

源氏中おすの清きまらけりけり此八月十五夜の月お  
心をすまて上上の清きまらけりく上の清きまらけり

清きも思ひあはれ

見らばくをまらけりけりけりけりけりけりけりけり  
とけりけり此詩の一句を誦して入らぬとけり物清き  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
の文章博きとけりけりけりけりけりけりけりけり  
あはれ先見のあはれけりけりけりけりけりけりけり  
事とて懸葛も思ひあはれけりけりけりけりけりけり  
達りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
離朱之明不能視臆上之慈仲尼之智不能知薩摩也

このまゝなりし事と初月の詔奏より  
つゞく罪を養ふ事有しりまゝあり  
仲上西也。  
應神天皇八年夏四月百姓の請ふと云り  
ウコノコノメノ大臣武内宿禰と筑紫へ遣しけり  
舎弟母美内之宿禰奏申さくは元武内常  
子天下と誓ひ心も今ほくはまゝく三韓とま  
き集くらしりし事誅致と企と天子使と遣し  
て大臣と使せしり爰は大臣二心行くと云を以  
て君は侍少の今何と還幸して死んやと云けり時  
はそ夜の雲の祖根子と云人なるもの去形大臣はね

似たり大臣は詔云願はれは多く其罪なりと事と  
新しと云大臣はつりて使せしむとて罪す  
これにて自死す大臣はそは海路より朝廷は去  
爰は天子兄弟三人は推同して大臣の去る中と  
知れくこは竊に知らは漢紀信楚は軍樂  
陽城のつり時高祖よりつりて草車より  
一志はよ不異他人を去りし時と隨く成りし  
情はつりあつりし身はつり連枝の軀を去り  
つり失りしつりけりしと志する時ハ胡越は此  
岸より志不令府ハ骨肉も離散せりと云



此も兄弟の誅討はわづねてこころむ同きよしありて信

後先在信少子

河内守頼信子

後冷泉院河内隆興も源頼義鎮守府の將軍と氣

老を頼内子

て貞任宗任と責けりし水菜の来りり成り合戦より

多きりけり天喜五年十一月は千二百余騎の老を

殺しておそひしせけりし貞任亦同子余騎の勢を集

りて志くと金為行の河摠柵ありて是をよせり

やう河内守あり同しけりては方の兵をよせり

ありけり上機もよめりおそりたり將軍いそ

大に破れり死者多し兵に方は散滿しては

不とりしは六條長男義家修理少進藤原系道治

系貞直後系孝範大宅光任後系則明也貞任の軍是とて

て責むせ業をよんす事前此を義家防戦改め

若サの齡して大なる矢を射り其矢よ中をりし必

すといれありしと事なり官軍よりこの軍とけ

破てかこの中をおれ中へ入事なり也いかりのこ

とくし七月を合らぬなり貞任是を感して八幡倉

にんけり此處に親る貞任の軍僅に二百余騎は成

ぬ程將軍とつこみく矢とつす事なり是れ一か

此相戦のる將軍改めせりて殆どぬれりなり

あれ義家光任亦五六騎して命をすすは方より





と思ふは、其會の邊門は入りしりしを、ゆく預讓く指  
下は、何しりも、慇也、其勢すく、かこまりて、貞  
臣を、おぼしりけり、わくよ、お、お、國山、お、任人、清、宗、氏、別  
一家の、宗、と、引、具、して、十、人、と、二、万、余、騎、の、兵、と、康、平、五  
年、七月、將軍、よ、加、つ、よ、ま、り、ゆ、て、同、九、月、十、七、日、よ、そ  
厨川の、柵、して、貞、臣、遂、よ、う、う、な、け、り、其、時、舍、弟、重  
信、と、男、千、世、重、子、より、始、て、貞、臣、と、同、類、と、切、り、し  
き、者、八、人、歩、兵、救、不、成、残、の、宗、臣、家、臣、則、臣、亦、宗、徒  
の、宗、十九、人、十、余、日、と、之、と、降、人、よ、ま、り、此、中、小  
こ、し、よ、衣、び、る、事、ハ、則、臣、の、妻、女、館、の、破、り、時、男、が、死、て

と、君、改、よ、死、と、す、我、一、人、と、何、と、せん、と、て、之、よ、成、子、を、い、て、こ  
て、高、岸、より、成、と、投、て、お、ぬ、人、の、者、深、を、流、り、多、り、頼  
義、と、家、未、忠、を、天、胡、り、つ、つ、て、之、を、遠、道、よ、あ、け、あ、り、その  
後、年、へ、と、白、川、院、山、内、は、若、門、則、明、く、老、衰、を、そ、り、け  
る、を、と、ら、か、して、お、治、せ、せ、ら、ん、ら、る、よ、是、り、と、故、頼、義、胡  
臣、の、鎮、守、府、と、多、く、秋、田、城、へ、付、侍、時、より、言、う、り、侍、よ  
軍、の、め、の、と、た、と、し、間、法、白、の、と、い、ら、ね、と、て、ひ、へ、事、跡、幽  
玄、也、殘、事、も、と、と、も、り、ぬ、ら、う、と、て、清、衣、を、給、り、侍、け  
り、抑、松、を、負、事、と、云、事、ハ、ま、り、と、人、の、と、め、よ、は、す、あ  
負、心、あ、り、ま、り、と、す、雪、霜、お、の、り、け、り、と、こ、し、も、色、改





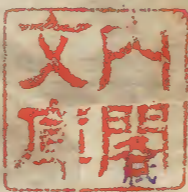
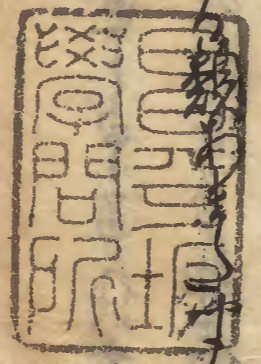
ま老の力跡もなくなりて今ハキのじ方おくみくより僧  
ワケのくくる来もたはくく思あやうてつやく奥と  
ろくしておれ天自葛川意子修く衣よキもくく  
して奥をうめひくくらのき鎌と二三おておこ  
つたり禁割の童まはるれ官人はまをくめ取  
て院西へめてあぬえ子細と同か殺と禁割世よ  
りくおれ一いつく其中とまくくん況マ法師  
のねくして其衣をきおくは犯をサすりくく  
啓道マおれ一と作合くくく僧法とおりて  
申ねえ下は禁割の童まゆくと皆来志不也此割

ねく大法師の成りて此振舞不可を但家老より母と  
てはう只家一人の外まのまたら人お一齡をけ成か  
くくして棚夕の合をくすくくす家まくく貪家  
て賊をかれ心の一くは訪は力堪す中よも奥をけ  
まの地をくす此一天の割まよりて奥高の類おこ  
る力のかすくまよゆりくは是をくすけんくま  
心のまをく本やまはまはまは奥取御もくくね大思  
のあやうまは河のまはまは修く衆と行りくま  
れ内よゆりく不可通くす但此取不の奥とく放り  
た難く成のまをゆりくくくを母の行る

つゞねくしとをあらわすなり味をすしうて心せしむ  
け好まざるをいふも其れなりとすすんを中身人  
流をわすし院岡をて養老の志あらうぬと衣感  
せむ好く極くの物た馬車よつて流をてゆらんよ  
多りきりし事あるは程中へき中を伴合りし事  
◎武則公相と云随取父子よりなり右馬場のせり  
らうもつて射をうとてるは勅當して時してあけ  
らよ遊幸もわくしてうらんもれはる人いし事  
あかくはうらうらとて同もれはり遊退る養老  
の又わんとしてたれわくしは極くは便也なり

もれは心身のりわたりうらう也と申もれは世人の  
孝子なりとて世の習えきりのわたり智徳太子用  
の杖の下よあつてを流げつと思入りけつや孔子弟  
子は曾参と云けつ父のつりてあもるは遊すし  
を遊すりけつは孔子守好くりし事なり父の思  
名をたるとん事ゆりし事不孝也と禁め好まらば  
理也親の所よより(遊)とあつて父母は信つてき道  
よく孝經よんるは文は二章と分立する終の  
信を六段親章とわく養礼の儀式を注せり是  
んるへし中し事習教よ孝養父母奉事仲長を

しては世の道にせり成所髪膚と父母は受けるを  
 の始りまは恩徳の寂高けり事父母はさへわたり  
 人とは忠貞の誠とくく下は憐愍の思を原し父母教  
 類は孝行の心と宗と一友はあはれそなり人を  
 其の事には義礼智信の五常と不礼と徳とす  
 又夫婦の中とは忠臣の道とくく女は徳男は  
 志と勇と人一人は忠は賢女は平よりなり日  
 こ随ふのまはあはれすを治すても貞女は徳の月を  
 め長く一子孫の内は用ひて  
 ひくす同道は信は頼多し



文内閣  
 以参拾四  
 枚

山

